マスコミ通信

国際経営株式会社
KOKUSAIKEIEI co.,ltd

2023年
5月号

2023年4月3日
PR TIMES
（株式会社アスカネット）

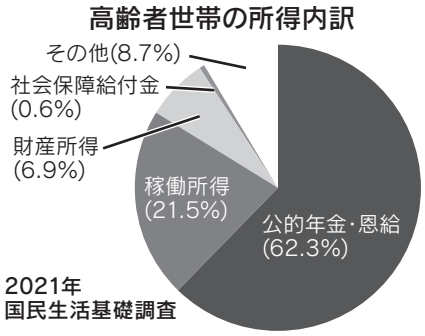
販促カレンダー<5月>　皐月

1	月	メーデー、富山 高岡御車山祭
2	火	八十八夜、奈良 東大寺聖武天皇祭
3	水	◉憲法記念日、山口 下関海峡祭、福岡 博多どんたく（～4日）
4	木	◉みどりの日
5	金	◉こどもの日、立夏、神奈川 国府祭
6	土	
7	日	
8	月	世界赤十字デー
9	火	
10	水	茨城 笠間稲荷御田植祭
11	木	岐阜 長良川鵜飼開き、東京 下谷神社祭（～14日）
12	金	東京 神田祭（～14日）
13	土	岐阜 大垣祭（～14日）
14	日	母の日、島根 出雲大社大祭礼（～16日）
15	月	沖縄本土復帰記念日、滋賀 大津三井寺千団子祭（14日～）
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	奈良 唐招提寺うちわまき、福井 三国祭・山形 酒田まつり（～21日）
20	土	奈良 興福寺薪御能（19日～）
21	日	小満、静岡 伊豆下田黒船祭（19日～）、東京 浅草三社祭（19日～）
22	月	
23	火	
24	水	
25	木	東京 五條天神社例大祭、東京 湯島天満宮例大祭（～28日）
26	金	
27	土	福岡 筥崎宮さつき大祭（～28日）
28	日	本願寺宗祖降誕会
29	月	
30	火	
31	水	

高齢者世帯の収入は年間「332万円」
所得内訳や年金以外の収入源を調査

総務省統計局によると、2022年の日本における65歳以上の高齢者人口は3627万人、総人口に占める割合は29％と過去最高、そして世界最高を記録しています。さらに、高齢者の人口は増え続けることが予想され、2040年には総人口の35％に達すると推測されています。高齢化が進み、年金受給額に関する不穏なニュースが飛び交うなか、老後の収入が気がかりな人も少なくないはずです。

厚生労働省の「国民生活基礎調査」（2021年）によると、高齢者世帯の約25％が、公的年金・恩給のみを収入源としていることが明らかになっています。また「国民生活基礎調査」では、高齢者世帯の平均総所得は年間約333万円です。平均総所得のうち、公的年金・恩給が約207万円、稼働所得が約71万円、そのほか財産所得や個人年金などを含めた額が約55万円となっています。



ここで、重要なのが「その他」の項目です。「その他」は仕送りのほか、企業年金や個人年金です。さらに、財産所得（債券の運用による利子所得や株式運用による配当所得、不動産賃貸料など）や、年金以外の社会保障給付金（高齢者医療給付費、老人福祉サービス給付費および高年齢雇用継続給付費）なども含まれています。

年金以外の収入源の確保が、老後のゆとりにつながる

内閣府による「令和2年版高齢社会白書」が示す労働力人口のデータによると、1980年から2019年までの約40年間、労働力人口に占める65歳以上の割合は、増加の一途をたどっています。そして、「国民生活基礎調査」（2021年）には、50％以上の高齢者世帯が「生活が苦しい」と感じているというデータもあります。高齢者の人口や就業者の割合が増える今、安心して生活ができるゆとりのある老後に備えて、公的年金以外の収入源を確保することが、重要な課題となりつつあるといえるのかもしれません。

島耕作シリーズの漫画家 弘兼憲史さんが語る 60歳から…1/5

2023年1月31日 PRESIDENTオンライン

60代は「まだ」と「まだまだ」を大切にしよう

「もう」という言葉は、「歳だから」という言葉につながります。「もう歳だから」と自覚したときから、ほんものの老いは始まると思います。「もう」ではなく、これからは「まだ」を口癖にしたいものです。きっと別の生き方が訪れます。わたしは75歳になる今でも、現役の漫画家です。

「引退」という言葉があります。スポーツ選手や職人などが、引退を口にし、現役を退きます。そのほとんどは「体力的な問題」です。体力の限界を感じるというものです。これは「もう歳だから」と同じです。引退とは、それで人生が終わりというものではありません。「もう歳だから、これはやめる」という意味にすぎず、これから始まる第二の人生で、ほかのことなら「まだ、できる」ということではないでしょうか。「ヤング・オールド」以上の人には、前向きな「引退」をおすすめします。「ほかのことならまだやれる」ということです。わたしも漫画家をいつか引退するかもしれません。もしそうなったとしてもわたしの人生は漫画だけではありません。仮に漫画家は引退しても、好きなワインや料理を、もっと深めていくという道があります。でも、わたしはまだ引退したくないので、好奇心を持ち続け、健康に気を遣っています。まだまだ、やりたいことだらけだからです。

最後に60代の人が、ドキッとする言葉を贈ります。「一生、それをやらないままでいいんですか」「まだ」を大切にしましょう。「まだまだ」これからなのです。

太宰の墓石にサクランボ押し込む 謎の風習 誰が何のために？

Jタウンネット

初めて見た人は不思議に思う光景かもしれない。太宰治の遺体が発見された6月19日は「桜桃忌」と呼ばれ、禅林寺（東京都三鷹市）にある墓には毎年多くのファンが訪れる。なかでも目を引くのは、墓石の「太宰治」の文字に詰めこまれたサクランボだ。一見イタズラかと思われかねないが、この行為は古くから行われていて、ファンの間では有名だ。そもそもなぜこのような風習があるのか。

太宰は1948年6月13日、山崎富栄という女性と共に玉川上水に入水心中し、19日に遺体で発見された。「桜桃忌」という名前は、太宰が死の直前に書いた短編小説「桜桃」と、この季節に実るサクランボが太宰のイメージに最もふさわしいとして採用された。太宰の弟子の1人である桂英澄の著書「桜桃忌の三十三年」には、桜桃忌が始まった当初の様子が綴られている。サクランボを詰め込む行為については、36、37ページに以下のような記載がある。

「桜桃と酒を墓前に供えるのはむろんだが、『太宰治』という文字の窪みに桜桃を嵌めこむことは、墓石に酒を注ぐのとともに、いつとなくつきものの行事のようになっている」いつ誰が始めたかは分からないが、少なくともこの書籍が刊行（1981年）される前からずっと続いているようだ。とはいえ日が経てばサクランボも腐り、片付けが大変なのではないだろうか。禅林寺に聞いてみたが、桜桃忌は禅林寺が特段何かを行っているわけではなく、サクランボを詰めることに対しては「良いも悪いもない」とのことだった。

自分史作成サービス

株式会社こころみ（東京都）と株式会社西日本新聞プロダクツ（福岡県）は、自分史作成サービスを提供するための業務提携を結び、自分史作成サービスの提供を開始しました。

西日本新聞社が運営する通販サイト「西日本新聞セレクトモール」上で提供されるサービスです。ご自宅やご希望の場所へ伺い、話しやすさを重視した2名体制での取材を行い、お客様のお生まれから現在に至るまでのさまざまな人生の道のりをとことん「聞く」ことにこだわって、自分史を制作します。ご自身で原稿を書く必要がないため、今まで自分史の制作に敷居の高さを感じていた方でも気軽にお作りいただけます。

2023年3月7日　PR TIMES（株式会社こころみ・株式会社西日本新聞プロダクツ）

個性豊かなお坊さまたち…

歌う僧侶　薬師寺寛邦の般若心経コンサート

2023年3月14日
PR TIMES（株式会社 MUGEN クリエイションズ）

２０２２年、初めての生コーラス隊による般若心経コンサートを東京、大阪の２公演で開催し、大反響を得た「般若心経コンサート」が開催。

薬師寺寛邦はギターを持ち歌う僧侶として、国内外で活躍するアーティスト。ＹｏｕＴｕｂｅでは、般若心経の関連動画の総再生回数が、世界で８００万回以上という驚異の数字を叩き出しながら、その活動は地道で実直。お経のリアル感と重厚感が会場に響き渡ります。４月２２日の愛媛公演の後、５月には待望のアジアツアーが待っており、今からアフターコロナのファンの方々の大きな期待を感じています。

『祈り』とは、決して特別なものではなく、お経を唱えるというのも必ずしもお仏壇の前でしなくてはいけないということではありません。『もっと日常の中で瞑想のように取り入れていただき、自分と向き合う時間を大切にしていただければ。』と、薬師寺寛邦は話します。

海外のファンの方も来られるこのコンサートでは、様々なストレスを抱える現代人にゆったりとした時間を体感していただきながら、少し日常から解き放たれた空間に浸っていただくことができると思います。心と体を癒し、自分自身を見つめ直す素晴らしいこの機会に、是非多くの方にご参加いただき、うちなる平和と心の安定を得ていただきたいと思います。

葬儀社員は見た！　私が出会ってきたユニークなお坊さんたち①

2022年9月3日
週刊現代

ある家の葬儀を担当しているとき、喪主に妙な相談を持ちかけられた。「ウチの菩提寺に、葬儀の時間を1時間早めて知らせてもらえないか？」。話を聞いてみると、ご住職は自称低血圧で、法要を営むときは決まって遅刻するのだそうだ。ただ、喪主のご要望を受け入れるのはかなり難しい。ご住職だけにウソの時間を伝えるのは無理がある。葬儀の日程は、お知らせ状や案内看板にも明記されるためだ。ご住職には、「どうぞ早めのお支度を」と告げるにとどめるしかなかった。

しかし、私はご住職の遅刻癖を舐めていた。ご住職は開式から10分を過ぎても現れず、慌ててお寺に連絡を入れた。すると、電話に出たのはご住職「今から支度して、すぐ行きます。30分後にはなんとか！」。式場に戻って、参列者に開式が遅れることを告げた。

参列者は、トイレに行ったり休憩所で雑談したりし始めるも、親族やご近所の檀家仲間は「いつものこと」と落ち着き払っていた。開式時間から40分が過ぎた頃だった。駐車場の方を眺めていた親族たちが、「来た来た」とざわついた。目をやると、駐車場に車を停め、全速力で玄関に向かっているご住職の姿が見えた。

走る姿は、まるでモモンガ

キラキラの袈裟が風に舞っている。「慌てとる、慌てとる。モモンガのようだ」初老の男性がそう呟いた。折しも季節は冬で、外は新雪がチラついている。雪原を滑空するエゾモモンガがわたしの脳内に浮かんだ。式場入口で開式の鈴を「チーン」と鳴らしてご住職は式場に滑り込むのであった。

【東照公のご遺訓】

忍耐の中から様々な「気づき」を得た徳川家康に学びます。

❺決断は、難しくない、難しいのはその前の熟慮である。

現代訳：決断は、一瞬にして出す事ができる。大切なのは、そこに至る過程でどれだけ深く考える事ができたかだ。

三方ヶ原の戦いにおいて、武田信玄に自分の城の前を素通りされたことに腹を立て、家臣の言うことも聞かずに出陣して返り討ちにあい、命からがら逃げ帰る始末。この戦いを深く反省し、この後は熟慮を重ねて、行動するようになりました。慎重に丁寧に考え準備することこそ、決断する時に必要であり、さらには良い結果を得られるという言葉です。

語り愛カレンダー

●五月のご命日●

「故人様と同じ日に、
こんな方がお亡くなりになっています…」
そんな一言をきっかけに、
傷心の喪主様へ、さりげないいたわりのお声がけを。

一日（月）友引　平成六年（一九九四年）

アイルトン・セナ（F1ドライバー）
「音速の貴公子」の異名で有名なF1ドライバー。八十年代から九十年代前半のF1を代表するドライバーの一人。

二日（火）　平成二十一年（二〇〇九年）

忌野 清志郎（ミュージシャン）
RCサクセションを筆頭に、多くのバンドを率いソウル・ブルースを下地にしたロックサウンドを展開した。

三日（水）　昭和三十六年（一九六一年）

柳 宗悦（思想家・美学者）
生活に即した民芸品に注目して「用の美」を唱え民藝運動を起こした思想家。民藝の普及につとめ日本民藝館を創設した。

四日（木）　昭和五十八年（一九八三年）

寺山 修司（詩人・劇作家）
「下町の錬金術師」の異名をとり、詩人、歌人、劇作家、映画監督、小説家、俳優、写真家など幅広く活動した。

五日（金）　明治三十三年（一九〇〇年）

イヴァン・アイヴァゾフスキー（画家）
おびただしい数の風景画を残したロシアの画家。その大半が海をモチーフにしており、海洋画家の代表的存在として知られる。

六日（土）　平成十八年（二〇〇六年）

萱野 茂（アイヌ文化研究者）
アイヌ文化、およびアイヌ語の保存・継承のために活動を続けた研究者。自らもアイヌ民族で、アイヌ初の国会議員としても活動した。

七日（日）友引　文政八年（一八二五年）

アントニオ・サリエリ（作曲家）
ローマ皇帝・オーストリア皇帝に仕える宮廷楽長としてヨーロッパ楽壇の頂点にいた人物であり、ベートーヴェンらを育てた名教育家。

八日（月）　明治三十六年（一九〇三年）

ポール・ゴーギャン（画家）
フランスのポスト印象派の最も重要かつ独創的な画家の一人。「黄色い家」でのゴッホと共同生活でも有名。

九日（火）　文化二年（一八〇五年）

フリードリヒ・シラー（劇作家）
ゲーテと並ぶ古典主義を代表する劇作家、詩人。詩は非常に精緻でありかつ優美であるといわれ、「ドイツ詩の手本」とされている。

十日（水）　嘉永二年（一八四九年）

葛飾 北斎（浮世絵師）
『富嶽三十六景』や『北斎漫画』等で知られる浮世絵師。後にゴッホなどの印象派の芸術家や工芸家、音楽家にも影響を与えた。

十一日（木）　平成二十一年（二〇〇九年）

三木 たかし（作曲家）
石川さゆりの『津軽海峡・冬景色』や『それいけ！アンパンマン』のオープニングテーマ曲の作曲家として有名。

十二日（金）　平成二十八年（二〇一六年）

蜷川 幸雄（演出家・映画監督）
日本を代表する演出家。海外でも評価が高く、「世界のニナガワ」と呼ばれた。２０１０年には文化勲章を受章した。

十三日（土）友引　昭和五年（一九三〇年）

田山 花袋（小説家）
『蒲団』や『田舎教師』などの作品で知られる島崎藤村と並ぶ自然主義派の代表的な作家。

十四日（日）　明治十一年（一八七八年）

大久保 利道（武士・政治家）
明治維新の元勲であり、西郷隆盛、木戸孝允と並んで「維新の三傑」と称される。維新後も政府の中枢として日本の近代化に貢献した。

十五日（月）　平成元年（一九八九年）

井深 八重（看護婦）
ハンセン病患者の看護に、生涯を尽くした看護婦。その活動は国際的に高く評価され、ナイチンゲール記章を受賞した。

十六日（火） 平成二十三年（二〇一一年）

児玉 清（俳優・司会者）
多くの映画やテレビドラマに出演したほか、クイズ番組「アタック25」の司会を三十六年にわたり務め、人気を博した。

十七日（水） 文化十五年（一八一八年）

伊能 忠敬（測量家）
十七年をかけて全国を測量し『大日本沿海輿地全図』を完成させ、日本史上はじめて国土の正確な姿を明らかにした。

十八日（木） 文化五年（一八〇八年）

エライジャ・クレイグ（牧師）
バーボン・ウイスキーを最初に製造したと伝えられており、「バーボンの父」として知られている。

十九日（金）友引 昭和十年（一九三五年）

トーマス・E・ロレンス（軍人・考古学者）
オスマン帝国に対するアラブ人の反乱を支援した人物で、映画『アラビアのロレンス』の主人公のモデルとして知られる。

二十日（土） 昭和五十一年（一九七六年）

荻原 井泉水（俳人）
新傾向俳句機関誌「層雲」を主宰。無定型自由律俳句を唱えて俳壇に大きな影響を与えた。門下には種田山頭火や尾崎放哉らがいた。

二十一日（日） 昭和三年（一九二八年）

野口 英世（細菌学者）
細菌学の研究に主に従事。黄熱病や梅毒等の研究で知られ、数々の論文を発表した。

二十二日（月） 明治三十七年（一九〇四年）

上野 彦馬（写真家）
幕末期から明治時代にかけて活動した日本における最初期の写真家で、日本最初の戦場カメラマン。

二十三日（火） 平成十九年（二〇〇七年）

熊井 啓（映画監督）
多くの作品が「キネマ旬報」ベスト・テンに選出され、ベルリン国際映画祭等の各賞を受賞した、日本を代表する社会派映画の巨匠。

二十四日（水）友引 昭和四十六年（一九七一年）

平塚 らいてう（思想家・作家）
大正から昭和にかけ「婦人参政権」の獲得に奔走したことで知られる女性解放運動・婦人運動の指導者。

二十五日（木） 昭和九年（一九三四年）

グスターヴ・ホルスト（作曲家）
イギリスを代表する作曲家の一人。管弦楽のために書かれた『惑星』が有名であるが、全般的に合唱のための曲を多く遺している。

二十六日（金） 明治十年（一八七七年）

木戸 孝允（武士・政治家）
幕末期に桂小五郎として知られていた尊王攘夷派の中心人物で「維新の三傑」の一人。明治天皇からの信頼も厚かった。

二十七日（土） 平成四年（一九九二年）

長谷川 町子（漫画家）
日本初の女性プロ漫画家として知られる。代表作に『サザエさん』、『いじわるばあさん』等。

二十八日（日） 平成四年（一九九二年）

藤村 富美男（プロ野球選手）
タイガースの黎明期を支えた、プロ野球創成期を代表する伝説の強打者。初代「ミスタータイガース」。

二十九日（月） 昭和十七年（一九四二年）

与謝野 晶子（歌人・思想家）
情熱的な作品が多いと評される歌集『みだれ髪』や日露戦争の時に歌った『君死にたまふことなかれ』が有名な歌人。

三十日（火）友引 昭和九年（一九三四年）

東郷 平八郎（軍人）
日本海軍の司令官として日清及び日露戦争の勝利に大きく貢献し、日本の国際的地位を「五大国」の一員とするまでに引き上げた。

三十一日（水） 応永十五年（一四〇八年）

足利 義満（室町幕府第三代将軍）
南北朝の合一を果たし、幕府権力を確立。金閣寺を建立して北山文化を開花させるなど室町時代の政治、経済、文化の最盛期を築いた。

Dream Bird®
国際経営株式会社 KOKUSAIKEIEI co.,ltd

鹿児島県の認知症高齢者が日本一少ない意外な理由

日本で認知症になりにくい地域はどこか。厚生労働省が調査・発表している国民生活基礎調査をもとに週刊現代が取材する中、日本では鹿児島県、奈良県の二県が、極めて「認知症になりにくい」ことが判明した。

６５歳以上人口のうち、認知症患者の割合が４７都道府県中、最も低かったのは鹿児島県の１・３７％、次いで奈良県の１・４４％となっている。２・９９％と最も割合が高い滋賀県の、なんと半分以下の数値。この二県は他の地域といったい何が違うのか―

グラウンドゴルフの競技人口が全国1位

鹿児島市、朝の８時半。共研公園の敷地内で男女２０人ほどがグラウンドゴルフに興じている。参加者の一人である花田勝さんに声をかけてみた。「私は今年８０歳で、週に３回は公園に集まって、８時半から１０時までグラウンドゴルフをしています」。実は鹿児島県はグラウンドゴルフの競技人口とゲートボールの競技人口が、ともに全国で１位だ。多くの人がこれらのスポーツに取り組むことで、体力だけではなく脳力の強化にも一役買っているのではないか。

いのくちファミリークリニック院長で認知症専門医の遠藤英俊氏が語る。「スポーツで誰かと競うことでアドレナリンが分泌され、活動意欲が高まります。特にゴルフから派生したスポーツは数を数えて空間を認知するので、脳の血流量も増えてアルツハイマー型認知症の原因物質であるアミロイドβを脳に溜めにくくする効果があると考えられているのです」

その後は酒を片手にカラオケ

花田さんによると、この日は１１時からカラオケ会も開催されるという。花田さんとともに、公園近くのカラオケパブへと向かった。店内に入ると、すでに７０～８０代までの男女５人ずつの参加者が揃っている。恰好を見てみると、男性陣はみなカジュアルジャケットを羽織り、女性陣もレースのあしらわれたお洒落な装いに身を包んでいた。乾杯すると、巻き寿司や鶏肉が入った出汁ベースの煮物など軽食をほおばる。鶏肉に含まれるトリプトファンは脳細胞を活性化するため、こうした食品も認知症予防に一役買っているのかもしれない。

（週刊現代　2023年4月1・8日号）

喪主の経験がある 40 代以上の男女に調査

葬儀で最も感動したのは「葬儀社の対応」

2023 年 4 月 3 日
PR TIMES
（株式会社アスカネット）

遺影作成サービス国内トップの株式会社アスカネット（広島県）は、過去に喪主経験がある４０代以上の男女４００名を対象にお葬式でやってよかったことに関する調査をおこないました。

やってよかった演出は、生花を飾ること

葬儀でやってよかったと感じる演出で一番多かった回答は「生花を飾る（１３７名）」、続いて「故人と同じ部屋で過ごす（１０３名）」、「思い出コーナー（４９名）」という結果になりました。生花（供花）は故人に贈る最後の送り物とされているため、どの葬儀形式においても「生花を飾る」ことを重視されていることが分かります。

思い出の品や写真を飾った人は、葬儀の満足度が高い

葬儀と写真に関する調査をおこないました。葬儀で故人の思い出の品や写真等を式場に飾ったかを質問したところ、「飾らなかった」が５１・２％と、飾らなかった人の割合が多い結果でしたが、写真を飾った方に対して、参列者や親族からの反応について伺ったところ、よかった（４４・１％）、どちらかといえばよかった（５２・８％）と約９割が満足される回答でした。また「葬儀をやってよかった」「どちらかといえばよかった」と答えた方は、「飾らなかった」場合が８５％に対し、「飾った」場合が９８％と高い結果となりました。思い出の品や写真を飾ることが葬儀の満足度を上げる要因の一つになっていることが推測されます。

葬儀で感動した事、葬儀社に任せて良かった事ベスト3

葬儀で感動したことに関して、最も多かった回答は「葬儀社の対応（１３３名）」で、２番目は「多くの参列者が集まってくれたこと（９９名）」、３番目は「祭壇の飾りつけ（８２名）」という結果になりました。葬儀をおこなうにあたり、喪主やご遺族の目線になって提案、相談をするその姿勢に感動したことで「葬儀社の対応」が入ったのではないかと考えられます。

葬儀社に任せてよかった事として多く上げられた回答は、「葬儀の飾りつけ（２６３名）」となりました。その他には「食事の手配（１７３名）」、「返礼品の選定（１０６名）」と続きました。

お花＆法要グッズ あれこれ…

どのくらいの頻度でお花を買いますか？をアンケート

お花のサブスク定期便（合同会社Ｍａｋｉｍａ）は、全国の１０代以降の男女の方を対象に「お花の購入頻度」についてのアンケート調査を実施しました。

１位：年に１回程度、２位：２・３か月に１回程度、３位：半年に１回程度、４位：全く買わない、５位：月に１・２回程度、６位：週に１回程度

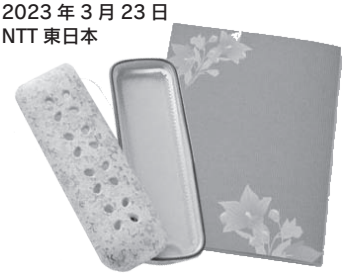
回答の理由として、誕生日や母の日などのイベントにプレゼントとして渡している、母の日、取引先のお祝いに買うといった意見が数多く見受けられました。お花を買う上での参考にしてみてください。

2023年3月11日
PR TIMES
（合同会社Ｍａｋｉｍａ）

新たな弔慰用電報台紙「寝かせる線香皿 清香」

ＮＴＴ東日本は、新たに弔慰用電報台紙「寝かせる線香皿 清香」を販売開始いたします。お線香を横置きで使用できる有田焼製の香炉です。蓋をして使用することで灰の飛び散りを防ぐことができます。葬儀や告別式等、お悔やみの場はもちろん、法事に参加できない場合や後から訃報を知った場合などでも、故人を偲ぶ哀悼の意をお伝えする贈り物として、メッセージを添えてご利用いただけます。

2023年3月23日
NTT東日本



世界初！青いバラの香りのお線香

株式会社日本香堂は、世界中の育種家や薔薇愛好家が長い間憧れ続けながらも、自然界には存在しないといわれ、不可能のシンボルとされてきた青いバラの香りのお線香「花風プラチナ ブルーローズ」を香りの専門店、仏壇店、百貨店等で発売を開始いたしました。

サントリーが開発した世界初の青いバラ。その香りをテーマにしたお線香

神話や物語、詩の中に姿をみせながらも、自然界には存在しないと言われていたブルーローズ。長い年月をかけてようやく花ひらいた世界初のブルーローズは、夜が明けたばかりの空を思わせる、ほのかな青さ。つぼみが開くとともに放たれる香りを再現したお線香です。

バラの香りは一般的に華やかなイメージですが、バラには、７つほどの香りの系統があるといわれています。ブルーローズの香りの系統は「ブルー」。特徴として、レモンのような柑橘系のさわやかさを含みます。「花風プラチナブルーローズ」は、生花の香りそのものを伝える創香で、祈りのシーンにとけ込むフレッシュフローラル調のさわやかさが特徴の、麗しく上品な香りです。

2023年1月25日
株式会社日本香堂

世界のお葬式

必要以上に悲しまないセ・ラ・ヴィ【フランス】

フランスでは「どこの誰が亡くなった」という情報は、地域新聞で知ることが多いと言われます。フランスのお葬式はカトリック式が一般的。お葬式は、神父による聖書の朗読や参列者による聖歌などが行われます。参列者は、遺体の足元に置かれた聖水入りの器に棒を湿らせ、十字を切りながら聖水をかけ、ご冥福を祈ります。フランスでは、香典の習慣がありません。親しい友人やお世話になった方に何かしたい場合は、アレンジメントフラワーを渡すようです。

服装は、喪主は黒い服を着ることが多いですが、参列者は肌を露出しないなら自由です。春夏には、ピンクや赤などの明るい色の服を着て参列する人もいるそうです。埋葬については、伝統的なキリスト教の習慣からまだ土葬が多いものの、土地不足や衛生面の観点から昨今では火葬が増加傾向にあります。火葬された遺骨は、陶器や大理石で作られたオシャレな骨壷に収められ、ご自宅に持ち帰ってリビングに飾る方が多いそうです。

フランスでは、親しい人が亡くなっても必要以上に悲しむことはしません。なぜなら「セ・ラ・ヴィ（それが人生さ）」という考え方が根底にあるからだと言われています。

※「PR TIMES」「@Press」は企業や官公庁のプレスリリース情報を配信するサイトです。※記事内容は掲載スペースに応じて編集させていただきました。

今日は何の日？

5月（皐月・May）

1日（1851年）
第１回万国博覧会が開幕
ロンドンで世界初の万国博覧会が開幕。ヴィクトリア女王が開会宣言をする。40カ国が参加。

2日（1952年）
ジェット旅客機「コメット」就航
イギリスで世界初のジェット旅客機「コメット」が就航。初年度だけで3万人が搭乗する人気を博す。

3日（1947年）
「日本国憲法」施行
国民主権、基本的人権の尊重、象徴天皇制、戦争の放棄と戦力の不保持などが定められている。

4日（1936年）
プロ野球初の本塁打
阪神タイガースの藤井勇が、日本プロ野球の公式戦で初めての本塁打を記録する。

5日（2012年）
原発の稼働基数がゼロに
北海道の泊原子力発電所の3号機が発電を停止。日本国内の原子力発電所の稼働基数がゼロに。

6日（2005年）
セ・パ交流戦開幕
日本のプロ野球で初のセ・パ交流戦が開幕。初の優勝チームは千葉ロッテマリーンズ。

7日（1888年）
日本発の博士号が授与
植物学者の伊藤圭介、数学者の菊池大麓、物理学者の山川健次郎ら25人に授与される。

8日（1987年）
「サラダ記念日」が出版
俵万智の第1歌集で、280万部のベストセラーとなり、新しい現代短歌の先駆けとなる。

9日（1929年）
日本発のトーキー映画が公開
新宿の「武蔵野館」で日本初のトーキー映画が公開。アメリカの短編映画が上映される。

10日（1988年）
瀬戸大橋が開通
本州と四国を結ぶ橋「瀬戸大橋」が開通。道路と鉄道の併用橋としては世界最大。

11日（1970年）
エベレストに日本人初登頂
登山家の植村直己が松浦輝夫と共にエベレスト登頂に成功。日本人初の登頂者となる。

12日（1964年）
テレビ東京が開局
東京12チャンネル（現テレビ東京）が開局。当初は民放ながら広告を流さない放送局であった。

13日（1972年）
千日デパート火災発生
大阪の千日デパートで起きた火災で、死者は118名。日本のビル火災史上最悪の大惨事。

14日（2007年）
「国民投票法」が成立
日本国憲法改正の手続きを定める「国民投票法」が成立。2010年5月18日に施行された。

15日（1972年）
沖縄が日本に返還
沖縄の施政権がアメリカから日本に返還される。これにより人口９５万人の「沖縄県」が発足。

16日（1689年）
松尾芭蕉が「奥の細道」の旅へ
松尾芭蕉が「奥の細道」の旅へ旅立った。それにちなんで「旅の日」と制定されている。

17日（1985年）
「男女雇用機会均等法」が成立
女性差別撤廃条約批准に向けて制定された「男女雇用機会均等法」が可決成立する。

18日（1964年）
コインロッカー初登場
東京・新宿駅東口に新宿民衆駅ビル「新宿駅ビル」が完成。コインロッカーが初登場。

19日（1952年）
白井義男が世界チャンピオンに
ボクシングの白井義男がダト・マリノに判定勝ち。日本初の世界フライ級チャンピオンに。

20日（1941年）
東京湾が開港
東京湾が大型船が入港可能な外国貿易港として開港。都はこの日を「東京湾開港記念日」に。

21日（1934年）
渋谷駅前に忠犬ハチ公像建立
東京・渋谷駅前に忠犬ハチ公像が建立された。モデルとなったハチ公も除幕式に列席した。

22日（1884年）
「自由の女神」が完成
フランス・パリで「自由の女神像」が完成。翌年、像は214個に分解され米国・ニューヨークへ。

23日（1980年）
「影武者」がグランプリ受賞
第23回カンヌ国際映画祭で、黒沢明監督の「影武者」がグランプリを受賞。主演は中代達矢。

24日（1903年）
日本発のゴルフ場がオープン
「神戸ゴルフ倶楽部」がオープン。イギリス人貿易商A.H.グルームによって六甲山に造られる。

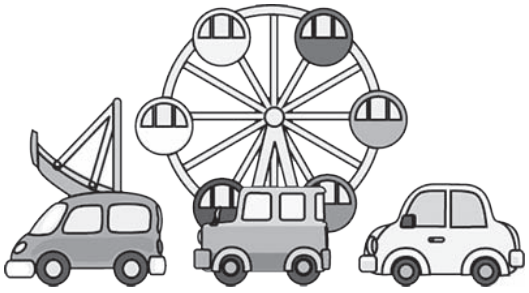
25日（1889年）
日本発の食堂車が登場
山陽鉄道の京都～三田尻（現:防府）間の急行列車に日本初の食堂車が登場。メニューは洋食のみ。

26日（2011年）
「世界の記憶」に日本で初登録
ユネスコの歴史的記録遺産をデジタル技術で保存する「世界の記憶」に山本作兵衛の作品が登録。

27日（1937年）
サンフランシスコの金門橋完成
アメリカ西海岸のサンフランシスコの金門橋（ゴールデンゲート・ブリッジ）が完成する。

28日（1967年）
ヨットで世界一周に成功
イギリスの海洋冒険家チェスターがヨットで世界一周し、イギリスのプリマス湾に戻る。

29日（1928年）
日本発の電気機関車誕生
鉄道省が民間と共同開発した日本初の国産電気自動車の試運転が横浜で行われる。

30日（1966年）
「巨人の星」が連載開始
「週間少年マガジン」で「巨人の星」の連載が始まる。TVアニメ化もされスポ根ブームに。

31日（1891年）
シベリア鉄道の起工式
ロシアのモスクワからシベリア地帯を横断してウラジオストックに至る世界最長の鉄道。